

独断と偏見によるラジオ談義やいかに

ラジオの魅力はいろいろあれど……

フリーライター
山家誠一

放送作家

さらだたまこ

&

編集部

ラジオは、インターネットの登場などで、大きな曲がり角にあるのかもしれない。いまどこにいて、どこに行こうとしているのか。良きものは残るのか。ラジオウオッチャーの山家誠一さん、さらだたまこさんを迎え、古くて新しいメディアの、いまと未来を語ってみた。

——まず口火を切らせてもらいます。

ラジオの魅力をことばで語ろうとすると陳腐になるのですが、あえて特集を組んでみました。私はもっぱらNHK第一放送を聴きます。といつてもふつうの勤め人なのでウィークデーの日中と夜中は聴けません。そこでの感想ですが、週日の『ラジオあさいちばん』『ラジオビタミン』『私も一言！ 夕方ニュース』、週末

の『どよう楽市』『音楽の泉』『歌の日曜散歩』『地球ラジオ』の大ファンです。こうした番組を聴かないのは人生の損失です。

山家 よく聴いてるねえ、NHKばかり。ラジオが好きというより、NHKラジオが好きなんじゃないですか。偏向してるよね。

——偏向は自覚しています。昔はTBSやFMのJ-WAVEも聴きまし

——歳とればそうなりますよ。テレビ

の民放なんか見てられないし。偏向は自覚しているのです、お二人にNHKラジオ以外の話を聞き、バランスをとろうと目論んだわけです。子どものころの記憶ですが、母親がラジオ好きだったので、朝食の支度をしながら聴いていた。向田邦子さんの脚本で森繁久弥さんが語りの『重役読本』(TBS)をよく覚えてます。山家 なんか昭和そのものだね。台所からトントンと何か切る音がして、ラジオがかかっているなんて。

——そして一九六〇年代後半から七〇年代の前半ですか、深夜放送の最

盛期は。中学生になるとそういうのを聴き始めた。でもそれもTBSです。ね。

山家 刷り込みは恐ろしい。母親がTBS聴いてると息子もTBSを聴くん。だ。

インターネットを使う・使わない

——テレビにはチャンネルをバンバン変えるザッピングという現象があります。ラジオにはそれがありません。なぜですかね。

山家 昔はダイヤルを合わせる手間があったからということもあるかも。でもいまはボタン押せば選局できるからね、なんでだろう。

さらだ 住む場所の電波の入り具合がある。新宿の西のほうに住んでい

たときは民放だと文化放送だけ。ニ

ッポン放送なんか全然入らなかった。でも目黒に越したら今度はTBSがよく入った。そうするとずーっとTBSになっちゃう。

山家 地方のリスナーと同じだよ。NHKと地域の放送しか聴かない、というか聞こえない。

さらだ 文化放送はラジオカーを都内に出していたから、馴染みがあるから手振ったりして。そうした中継現場で局の人がカッコよく見えたりするから、ああいう仕事につきたいなと思った。放送作家の多くはそういう動機の人が多いですよ。裏方で制作、ちよつといいじゃないですか。テレビに出たいと言つと、なんとミィハーかとバカにされるけど。

山家 僕はひねくれてるから、みんなが深夜放送の話していても「ケツ！」っていう感じで話の輪に加わ

●やまが・せいいち 朝日新聞で約25年にわたってラジオ放送や番組に関するコラムを書き続けている。

●さらだ・たまこ テレビの『料理バンザイ!』『大希林』などの構成、脚本を手がける。ラジオ日本木曜深夜3時~4時放送の『カフェ・ラ・テ』パーソナリティ。ギャラクシー賞ラジオ部門選奨委員会メンバー。著書に流行語にもなった『パラサイトシングル』など。

●編集部 1957年神奈川県生まれ。

(放談者は関東地方出身・在住で、取り上げる放送局、番組が関東エリア中心になっていきます)